

地域連携推進会議報告書

【 報告者 】 地域支援課マネージャー

会議名	地域連携推進会議	場所	活動室
日時	令和 7 年 10 月 21 日 (火) 15 : 00~16 : 00		
出席者	ご利用者 1 名、利用者ご家族 1 名、第三者委員 2 名、府中市職員 2 名 施設職員 3 名 (管理者、入居支援課マネージャー、地域支援課マネージャー)		

- ・配布資料：会議次第
- ・共有資料：施設概要説明資料 (パワーポイント)、法人ホームページ、インスタグラム

【会議内容】

○地域連携推進会議の目的、以下 4 点 (次第記載) について改めて共有。

1. 利用者と地域との関係づくり
2. 地域住民の皆様への施設やご利用者に関する理解促進
3. 施設・サービスの透明性・質の確保
4. ご利用者の権利擁護

1、自己紹介

⇒参加者ひとりひとり簡単な自己紹介を行う。

2、みずきの概要と現状の報告

⇒管理者より新卒採用活動に使用しているパワーポイントを使用 (TV 画面共有) しながら、法人・足立ブロック・多摩ブロック・みずきの事業所の概要に説明する。また、令和 7 年度上半期事業報告 (みずき全体まとめ) を同じく画面共有しながら、重点目標および上半期の取り組み、今後の課題について説明する。

入居支援課マネージャーより入居支援課の取り組み、地域支援課マネージャーより、短期入所の取り組みなど簡単に捕捉説明する。

3、地域との連携に関する課題と今後の取り組み

- ・ご利用者より「地域」、府中市職員より「みずきまつり」に関する質問あり。

⇒近隣には学校や施設しかない。そのため、カフェを中心に多目的スペースの活用や出展ブースの活用、他施設のイベントでの出店など交流をひろげている。また、みずきまつりについてはコロナ禍を挟み積極的に近隣施設に声をかけてはいないが、地域団体に声をかけ演奏やダンス、物販などをおとした交流の場になっている。みずきは住宅地から離れている特性があり、強みを生かしたご利用者の社会貢献の機会など作りづらいことが課題として挙げられる。

4、質疑応答と意見交換

・ご家族よりグループホームえだまめに関してや、入所しながら通所されるご利用者の状況などに関する質問。※最近、相談員よりグループホームに空きができたとの連絡を受けたとのこと。

⇒法人 HP や Instagram を画面共有しながら、管理者よりグループホームえだまめを紹介。

⇒入居支援課マネージャーより以下について回答。

障害福祉サービス上、日中サービスの別事業所利用は可能。現在の入居ご利用者のうち3名が支給量を考慮のうえ他施設へ通所されている。ご利用者の意向もあるが、施設としても入所により住み慣れた地域とのつながりがなくならないようにと考え、利用いただいている。

みずきは周囲が施設という特殊な環境ではあるが、入所ご利用者も地域で暮らすひとりとして、地域交流や参加の機会を設けるようにしている。

施設入所されているご利用者が通所を利用されたいとの意向があっても、通所先となる生活介護事業所の利用制限（対象障害、対象市区町村など）や送迎、通所日数、時間、支援内容など課題がある。

施設は共同生活であり、支援者を共有しているため、個別性の高い意向に対し、対応の限界を感じることがある。24時間、365日見守りを含めて支援の必要な方など、施設支援を必要とする方はいるが、個別性の高い意向を求められるのであれば地域移行をすすめたい。

地域に支援が少ない、支えるひとより支えられるひとの方が多い、福祉の人材不足、福祉サービスに頼るにもそのサービスが無いなど、障害者が地域で暮らす大変さは理解できる。お互いに支えあえる関係性があり、困っているひとに手を差し伸べられる地域であることが当事者のみなさんにとっての暮らしやすさなのかもしれない。

入所される方の経緯として、ご本人の意向よりもご家族の高齢化により入所された方や、最期の生活の場所として入所された方などさまざまではあるが、ご利用者の意向が尊重される状況になっても、施設生活が長い方ほど地域移行することへの不安や帰る場所の選択肢が少ないことなどの理由で踏み切れずにいる方はいる。

みずきは都内全域からいらっしゃるので、暮らしていた地域へ戻っても、入所により一度途切れたつながりをつくっていくことへの不安もあり、入所後の地域移行はハードルが高くなるのではないか。施設入所希望については、将来的に備えて登録されている方もいるが、入所できるタイミングはわからない。施設入所の利用を考える前に、地域での暮らしを継続させるために、グループホームなどの資源をうまく活用していただければと考える。

5、施設見学

地域連携推進会議後に館内をご案内する。

以上